

# Z会進学教室 葛西通信 4月号

葛西教室に通う本科生の皆さんは、以下の四点を心がけるようにしましょう。

- 1 進学塾に通う中学生としての自覚を持つこと。
- 2 信頼の土台となるあいさつをきちんとすること。
- 3 書くことを大切にし、ノートをしっかりとること。
- 4 自習室を上手に利用し、自分で考えてもわからないことは遠慮なく先生に質問すること。

葛西教室より

葛西教室卒業生の声をお届けします。

## 『ニュージーランド留学』

高校3年生 S.S.

こんにちは！

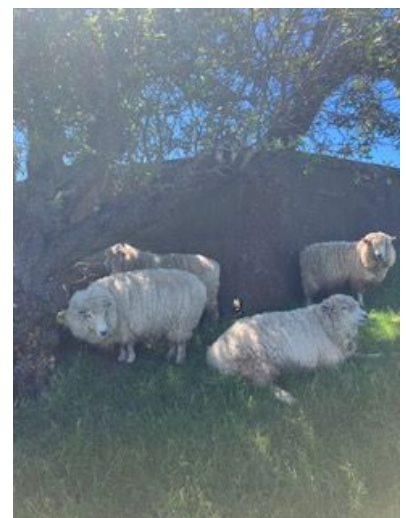
私は3月まで都立国際高校に通っていました。4月からは父の転勤でフィリピンのインターナショナルスクールに通います。葛西教室には中学校の約2年間お世話になりました。

私は2023年の1月から11月の10か月間ニュージーランドに留学をしていました。

首都のウェリントンという場所で過ごしました。あまり聞いたことがないかもしれませんが、ニュージーランドではオークランドという都市が最大で、ウェリントンは2番目に大きなまちです。ニュージーランドは自然がいっぱいというイメージを持っている方が多いと思います。私は一応首都に住んでいたため、都会のほうにいたと思います。バスも電車も通っていて、生活で困ることは特にありませんでした。私は運よく都会でしたが、ニュージーランドにいた別の友達に聞くと、バス停まで歩いて2時間、バスは1時間に1本などは当たり前で苦労することも多かったようです。しかし私が住んでいる都会のほうでも車で20分もすれば羊や牛に簡単に出会えます。また、少し山のほうに行くとすぐにスマホが圏外になります。ここからは私の留学生活について書いていきます。皆さんが留学について、海外について考えるきっかけになると嬉しいです。



↑ウェリントンはここ！



記事中の写真は全てS.S.さんが撮ってきてくれたものですー

## 〈留学のきっかけ〉

もともと私は英語がとても苦手でした。苦手だから嫌いで、嫌いだから苦手で、高校受験時もかなり足を引っ張っていました。ですが海外に興味はありました。昔、親の都合で中国に住んでいたことが大きいと思います。自分の将来のために英語を伸ばしたいということと海外へのあこがれから、留学をしたいと中学生の時から思っていました。国際高校に決めた理由も、留学のサポートが充実しているからというのが大きかったです。高校受験時は英検3級しか持ってなかったです。



国際高校に入学して、自分のリスニングやスピーキングの力のなさに驚きました。国際高校は英語の授業が多くレベルも高いので学ぶことも多い反面、英語が苦手な私は自分の限界も感じていました。私は特にその二つの力が弱いので、現地に行ったくさん英語や人と触れ合うことで力を伸ばしていきたいとより強く思うようになりました。そこからあるプログラムに応募し、留学が決まりました。

## 〈利用したプログラム〉

私は次世代リーダー育成道場というプログラムを利用して留学しました。これは東京都が運営するプログラムで、都立高校生がとても安い値段で留学に行けるものです。通常1年間の留学には300万円近くかかります。次世代リーダー育成道場では80万円、さらに減額の対象であれば40万円で行くことができます。しかし、東京都に費用を負担してもらう分条件は厳しくなっています。応募するためにはある一定以上の成績が必要で、応募後も東京都の方との面接や英語の試験があります。これに合格してようやく次世代リーダー育成道場の研修生となります。AコースとBコースの2つがあり、Aコースはオーストラリアかニュージーランドへの留学、Bコースはアメリカかカナダへの留学となります。研修生はAかBのどちらかを選ぶことは可能ですが、派遣される国や地域、学校、ホストファミリー等はすべて東京都が決定します。

また、研修生になってもすぐに留学に行けるわけではありません。とても大変な事前研修が半年から1年待ち受けています。月に2度ほど日曜日に研修があり、日本の歴史や文化、英語などを学習します。家で行う課題も多くあり、かなり大変です。また一番大きなものはゼミナール研究というもので、自分でテーマを決めて調査をおこない、1万字近くの論文を書かなければいけません。留学中も還元プログラムといって小中学生とオンラインで交流したりします。また帰国後も事後研修があり、すべて修了した後も修了生として東京都に還元するプログラムに声をかけられたりします。条件は厳しいですが、本当にたくさんのことを学べるとても良いプログラムです。ただの語学留学で完結せず様々な出会いがあるので、興味のある人はぜひホームページを見てみてください。



## 【ニュージーランドでの生活】

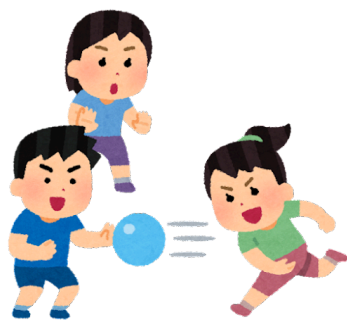
留学生活は行った国や地域、学校やホストファミリーによって一人ひとり全く違うため、あくまで私の経験談として参考程度に楽しんでほしいと思います。

## 〈学校〉

学校は9時にスタートでした。家から歩いて15分で学校についたため、毎日8時に起きていました。さらに水曜は9時30分スタートだったため、毎朝のんびりと過ごすことができていました。60分5時間授業で3時15分に学校がおわりました。4, 5時間目の間にランチタイムがあり、2, 3限の間には30分のスナックタイムがありました。学校は4ターム制で1ターム10週間、各タームの間に2週間のホリデーがありました。

私は自分の1つ下の学年のyear11にはいりました。とる科目はすべて自分で決めることができ、6つの教科が週に4回ありました。また、留学生は最初の3, 4週間の間は自分に合わなければ自由に教科を変えることができました。私もはじめは4, 5個変えました。最終的に選択した科目はダンス、保健体育、ドラマ、数学、理科、経済の6つです。

一番楽しかった科目はダンスです。ヒップホップやコンテンポラリーダンス、ジャズやブレイクダンスのようなもの、バレエ、ササという民族ダンスまで幅広くやりました。ニュージーランドではロックンロールというダンスがポピュラーでした。2人で踊る社交ダンスのようなものです。とても良い先生が教えてくれ、初挑戦のジャンルでも楽しく踊れました。友達も良い子たちが多く、積極的に交流できました。



保健体育は英語が苦手で授業について行けると思い選びました。ニュージーランドの体育の授業はとても自由です。まず、すべて男女一緒に行きます。遠慮は一切なく速いボールが飛び交います。また、授業が始まり最初の10分15分は自由時間です。みんなが好きなボールを取り出して遊ぶため、サッカーボール、バスケットボール、バレーボールなど様々なボールが飛び交いカオスです。ようやく授業が始まっても準備体操はありません。何人かのやる気のない女子は遅れて入ってきます。私はPEの時間一人、とても仲の良い子がいたのですが、その子はその日の授業で行うスポーツが好きじゃないと脱走してどこかへ行ってしまいます。それでも特に怒られていませんでした。地味に苦労したのが保健のテストです。全くわからない単語が多く、自分の言葉で筋肉の仕組みなどを説明する必要があったため大変でした。

数学、理科はとても簡単でした。英語の単語さえわかれば内容自体は本当に簡単です。数学に関してはみんな電卓を使っていました。関数も関数電卓で電卓にグラフを書かせたりします。先生が電卓の使い方を教えている時間もあります。私はなるべく使わないようにしていましたが、電卓を使わないと答えが出ない問題も多くありました。

ドラマの授業では演劇をします。1タームかけて、1時間弱の大きな作品を作りました。英語でセリフを覚え演技をするというのはとても大変でしたが、終わった時の達成感は大きかったです。またこの授業が一番自分の英語力の伸びを実感しました。自分たちで台本を作って演じたり、5分ほどの短い台本を2週間ほどで覚えて発表したり、短いドラマを作って編集したりしました。ただひたすら椅子取りゲームやクイズなどのミニゲームをする時間もあり、日本にはない面白い授業でした。



またターム1ではELNZ (English New Zealand) という科目をとっていました。留学生やNZに家族で移り住んできたアジア人など向けの授業でした。とても簡単な英語と同時にNZの文化を学べました。が、日本人同士が集まる授業なのでどうしても日本語で話してしまいました。なのでターム2では日本語の授業に変更しました。日本に興味のある子たちが集まるので新たな友達もできました。日本語を英語で教えるというのは意外と難しく、授業自体はとても簡単だったものの学ぶことも多かったです。

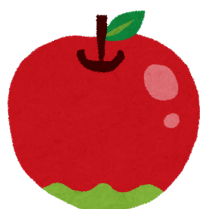
ターム3では経済の授業に変更しました。自分の英語によりやく自信が出てきたので、自分が本当に学びたかった教科を取りました。英語の単語を覚えるだけでなく、英語で考え問題に答える必要があったため難しかったですが、このころにはある程度はできる力はついていました。

宿題はどの教科もほとんど出ませんでした。たまに長めのレポートはありますが、計画的にやればそこまで問題はありません。小テストもないため、自分から勉強しようとしなければ全くやらなくても良い毎日でした。ニュージーランドは自由で楽な分、学力を伸ばすには向いていなかったです。日本の忙しさにもニュージーランドのんびりさにも良い点も悪い点もあると感じました。放課後のクラブ活動は全く活発ではありませんでした。スポーツは冬のスポーツと夏のスポーツがあり、シーズンごとに違いました。また活動は週に1, 2回2時間程度のものでほとんどでした。私は日本では忙しい部活に入っているため、ゆっくりするために部活に入りませんでした。学校は3時15分に終わるのでとても暇でした。学校から歩いて15分程度のところにショッピングモールがあったので友達と寄ることが多かったです。意外とタピオカが人気で、日本にいる時より飲む回数が増えました。またストライキも多く、先生がストライキをするから学校が休みになるということが多々ありました。実際この前給料は上がったらしいです。



## 〈食事〉

2, 3限の間のスナックタイムは軽くおやつを食べられる時間です。学校にはキャンティーンがあり、アイスやコーヒー、シェイク、クッキーなどが買えました。冬に飲むホットチョコレートは特別おいしかったです。(ニュージーでは冬の飲み物と言えばホットチョコレートで、コーヒーショップも多かったです。) リンゴを丸かじりしている人もよくいました。最初は抵抗がありましたが、すぐに慣れて私もそのまま食べられるようになりました。ランチは私は毎日自分で作っていました。ホストファミリーに作ってもらっている子も多かったです。基本的にはハムとチーズを挟むだけのサンドウィッチを毎日作っていました。チーズは1キロの塊から毎日必要な分だけスライスします。これには結構コツが必要で、私は一度スライサーを真っ二つに破壊してしまいました。謝り倒したら笑って許してくれました。良かったです。ハムやチーズの在庫がない日はピーナツバターやチョコレートソース、はちみつを塗ってやり過ごしていました。朝食は基本的に自分で準備でした。私が学校に行く前にファミリーはみんな家をでるからです。私はヨーグルトがお気に入りでした。これもサイズが大きく基本1キロで売られていました。



食事は基本的においしかったです。マザーの作るフィリピン料理はたまに口に合わないことがありましたが、そこまで問題ありませんでした。辛いものはよく出てきたので、頑張って食べているうちにそこまで苦手意識がなくなりました。ご飯もよく出てきて、パンやポテトだけということもありませんでした。サラダも割とできました。ラムは初めて食べましたがおいしくてびっくりしました。一番の衝撃はもやしを生で食べたことです。意外とおなかには壊しませんでした。私の誕生日には日本料理風のものを作ってくれました。家の近くにジャパンマートがあったので、本当に日本のものが恋しくなったらお菓子を買っていました。おいしいものばかりあってたくさん食べたのでしっかり太りました。ほぼ毎日夜9時くらいにデザートが出てきます。アイスクリームにはフルーツやチョコソースが山盛り乗っています。とてもおいしくせっかく用意してくれているので、断り切れずたべていました。お菓子もクッキーやチョコがおいしかったです。ホーキーポーキーというバニラアイスにキャラメルのようなつぶつぶが入っているものはニュージーならではの味で一番おすすめです。ニュージーは基本たくさん入って売られているので日本のように小さく売られているものは逆に高かったです。



## 〈ファミリー〉

ホストファミリーはファザー、マザー、22歳のシスター、20歳のシスターの4人でした。10か月の間にタイ人の女の子、数年前ホストの家にステイしていた日本人の大学生など5人ほどと一緒に住みました。ファミリーは人が好きらしく、20年以上ホストとして生徒の受け入れを行っている家庭で、日本人も10人目くらいでした。そのため本当に温かい家庭で私にたくさんの経験をさせてくれようとしていました。



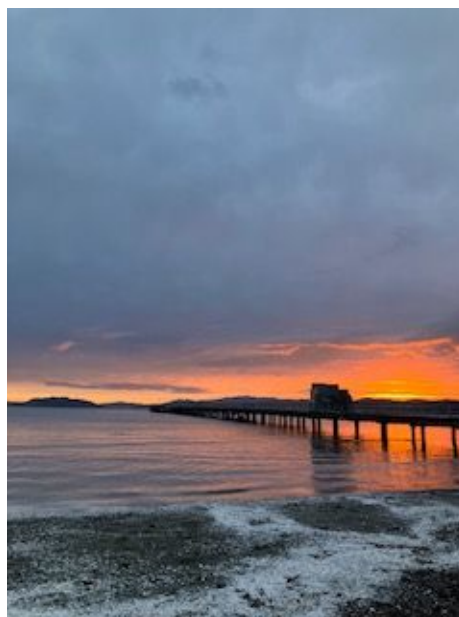
マザーはフィリピン人で10人兄弟でした。2人の兄はニュージーランドに住んでいたのによく会いました。10か月の間に3人がニュージーランドを訪れました。フィリピン人同士は特につながりが強く、よくホームパーティーを行っていました。まちで出会ったフィリピン人ドライバーと仲良くなり、20人以上のフィリピン人とドライブに行くことも数回ありました。20歳のシスターは私がいるときに21歳になりました。ニュージーランドでは21歳を盛大に祝う習慣があるらしく、2泊3日でコテージに泊まり、60人ぐらい集まる大きな誕生日パーティーをしました。二人のシスターの彼氏も毎日のように家に来ました。姉妹そろって彼氏の名前がトムでした。最初は緊張しましたが、旅行に一緒に行ったりご飯を食べたりしているうちに仲良くなりました。二人のトムもみんな同じファミリーの一員らしく、トムの家族とも仲良くなりました。



ファザーは教会で働いていました。キリスト教一家だったので毎週日曜は教会に行きました。私は毎週は来なくていいよと言われていたのですが、気が向いたときは行くようにしていました。教会と言えば静かで厳かなイメージでしたが、全然そんなことはありませんでした。前にステージがあってドラムやギター、ベース、キーボードなどで演奏します。ライブのような感じです。みんなでジーザスやハレルヤなどキリスト教に関する歌詞の曲を歌います。そのあと神に関するありがたいお言葉を30分ほど聞き、また歌います。みんな手をあげたり拝んだりして本気で神に向かって祈っています。想像より楽しくキリスト教に関わることができました。また毎週木曜日にはホストシスターがキリスト教徒のコネクトグループを運営していました。幸せについてや神についてなど、様々なことに関して話していました。キリスト教の考えをすべて理解することはできなかったけど興味深く、私もディスカッションに参加できました。一番印象に残っていることは自己紹介で、無人島に持っていくなら聖書とあともう一つは何かという質問です。聖書とはキリスト教徒にとってそれほど大事なものだということが分かりました。ファミリーやコネクトグループではよくミニゲームをしました。英単語を作るパズルは自分の語彙力の向上に役に立ちました。雑学クイズは私が一位になることも多く自信になりました。

#### 〈週末、ホリデー〉

土日やホリデーはファミリーと出かけることが多かったです。海に行ったり、ブッシュウォークといって山を歩いたり、ミニゴルフをしたり、カーレースを見に行ったり、色々なところに行きました。ニュージーランドは海がとてもきれいでいろんなビーチに行きました。4泊5日の旅行にも行きました。知らない人の結婚式に参加したのは謎だったけど見ていただけで幸せになりました。スイングというバンジージャンプ的なものもしました。意外と楽しくて爆笑していたらファミリーにひかれました。ニュージーランドはバンジージャンプ発祥の地らしく、ちょっとチャレンジしてみたかったです。



スポーツ観戦もとても盛んでした。毎週末家でのラグビー観戦は盛り上がりっていました。初めてスタジアムで生でラグビーの観戦をしました。迫力がすごかったです。ニュージーの人はみんなラグビーが好きだったのでワールドカップの時期は特に盛り上がりました。女子サッカーのワールドカップがちょうどニュージーランドでも開催されていました。町全体でも盛り上がりしていました。初めてなでしこジャパンの試合を見に行きました。現地の友達が日本人の私ぐらいの熱量で日本を応援してくれて楽しかったです。近くにいた現地の人も日本人の私に話しかけてくれました。多くのニュージーの人が声を出してジャパンを応援してくれていてとても嬉しかったです。



学校の留学生向けプログラムも充実していて、サーフィンをしたり、動物園に行ったり、羊の餌やりをしたり、フェリーに乗ったり、無料でいろいろなプログラムに参加できました。一番仲良くなったドイツ人の友達は日本語を勉強していたので私がよく教えていました。一緒にジャパンフェスティバルに行ったり、クライミングをしたりしてよく遊びました。

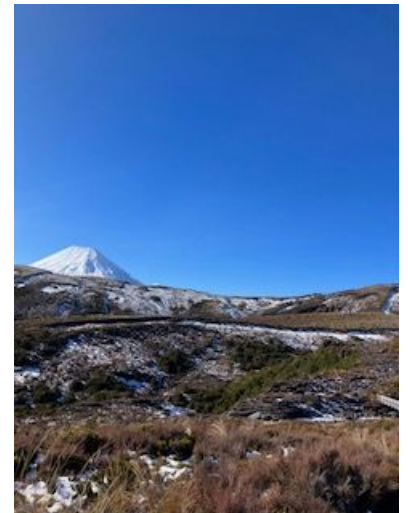


NZではほとんどの人が傘をささず、さしても風が強すぎて意味がなかったです。みんな防水のコートや、フードを被るだけでした。みんな濡れることをあまり気にしておらずびしょびしょのまま授業を受けている人も割といました。学校のトイレはほとんどが男女共用でした。LGBTQについての意識も日本とは全く異なります。例えば、友達やホストファミリーにDo you have boyfriend?と聞かれて、いないと答えるとGirlfriend?と再び聞かれます。みんなふざけているわけではありません。ボーイフレンドがいない場合はガールフレンドがいる可能性があるというのが当たり前ののです。女の子がたくさんいるグループの中に男の子が一人だけいるというのもよく見る光景でした。始めはheで呼ぶべきか、sheで呼ぶべきかととても迷いましたが、途中からはあまり性別を意識することなく一人の人として接することができるようになりました。

留学したい人にとって一番気になるのは英語だと思います。英語は私の場合最初は全く聞き取れず、英語力の伸びも感じませんでした。学校の勉強も、ファミリーや友達とのテキストのやり取りも、どんな短い文章でもすべてスマホの翻訳に頼っていました。しかし、正直Yes, No, OK, Hello, Thank youなど本当に基本的なことが話せれば暮らすことはできてしまいます。実際同じ学校に来ていた日本人はほとんど英語を学ばないまま帰国している人もいました。正直ただ留学するだけであれば、お金さえあればだれでもできてしまいます。しかしそれでは留学した意味がありません。そのような日本人に流されないためにも、しっかり自分の中で目標をもっておくことが大切です。よく最初の3か月で乗り越えられるといいますが、私の場合半年経ってもなかなか思うように聞き取れず話せずの状態が続きました。そんな状態でも、なるべく会話の輪に入るということを大事にしていました。話せなくてもその中で話を聞いてとにかく自分に英語を慣れさせていました。7か月目に入ってからようやく少しずつわかるようになり、そこから一気にどんどん英語を英語で理解するという感覚をつかんでいけたと思います。私はもともと英語が苦手なので、正直10ヶ月でペラペラとはなりませんでしたが、英語を英語で理解する力、リスニング力、ライティング力は格段に上がりました。スピーキングは1対1ならそこまで問題なくできるようになりました。英語が話せなくてもしっかり目標をもって毎日過ごしていれば、絶対に誰でも留学できます。安心して飛び込んでください。



留学生活で得たものが多すぎてこんなに長くなってしまいました。まだまだ語れることはたくさんあります。つらいことも多くありましたが、留学どうだったと聞かれるとやっぱり楽しかったが一番になります。留学からでしか学べないことが本当にたくさんあります。かけがえのない思い出がたくさんできます。私の文章を読んで少しでも留学に興味をもって、海外に飛び立つ人が増えると嬉しいです。



月	日	曜	受付	本科生スケジュール					本科生以外の方対象のイベントなど	
3	27	水	10 ~ 20	3V春期講習①	3K春期講習①	2V春期講習①	2K春期講習①	1V春期講習①		
	28	木	10 ~ 20	3V春期講習②	3K春期講習②	2V春期講習②	2K春期講習②	1V春期講習②	10:30~12:30 新高1スタート講座 数学	
	29	金	10 ~ 20	3V春期講習③	3K春期講習③	2V春期講習③	2K春期講習③	1V春期講習③	10:30~12:30 新高1スタート講座 国語	
	30	土	10 ~ 20	3V春期講習④	3K春期講習④	2V春期講習④	2K春期講習④	1V春期講習④		
	31	日		休室						
4	1	月	10 ~ 20	3V春期講習⑤	3K春期講習⑤	2V春期講習⑤	2K春期講習⑤	1V春期講習⑤		
	2	火	10 ~ 20	3V春期講習⑥	3K春期講習⑥	2V春期講習⑥	2K春期講習⑥	1V春期講習⑥		
	3	水	10 ~ 20	3V確認テスト	3K確認テスト	2V確認テスト	2K確認テスト	1V確認テスト		
	4	木	10 ~ 20	休講						
	5	金	10 ~ 20	休講						
	6	土	14 ~ 22	休講						
	7	日	10 ~ 20	本科4月度①						
	8	月	14 ~ 22							
	9	火	14 ~ 22							
	10	水	14 ~ 22							
	11	木		休室						
	12	金	14 ~ 22							
	13	土	14 ~ 22							
	14	日	10 ~ 20	4月度②						
	15	月	14 ~ 22							
	16	火	14 ~ 22							
	17	水	14 ~ 22							
	18	木		休室						
	19	金	14 ~ 22							
	20	土	14 ~ 22							
	21	日	10 ~ 20	4月度③						
	22	月	14 ~ 22							
	23	火	14 ~ 22							
	24	水	14 ~ 22							
	25	木		休室						
	26	金	14 ~ 22							
	27	土	14 ~ 22							
	28	日		休室						
	29	月		休室						
	30	火		休室						
5	1	水		休室						
	2	木		休室						
	3	金		休室						
	4	土	14 ~ 22	休講						
	5	日	10 ~ 20	5月度①	3V月例テスト	2V月例テスト	1V月例テスト			